

# ANABUKI COMMUNITY PRESS

穴吹コミュニティ情報紙

『アナブキ・コミュニティ・プレス』

2018 3月

編集・発行/株式会社 穴吹コミュニティ「アナブキ・コミュニティ・プレス」編集室 〒760-0071 香川県高松市藤原町1-11-22 穴吹工務店本社ビル7階 電話 0120-365-384(穴吹コンタクトセンター)

第81号  
Vol.81

- CONTENTS
- 巻頭特集インタビュー▷  
NPO四国夢中人 代表  
尾崎 美恵 / 1~3
  - ときめき野菜～春夏秋冬～  
『たけのこ』 / 4
  - インフォーマーシャル  
『BOCCO & あんしんリンク』 / 10
  - 特集:紙上セミナー  
『資産運用で失敗しないために』 / 7~9
  - 暮らしの日本語今昔  
『 』 / 10
  - フラワーアレンジメント  
アンガーマネジメント / 12
  - 自分らしく暮らす部屋づくり  
『 』 / 13
  - 読者の広場 / 15・16
  - 読者プレゼント / 15



Shikoku Muchujin  
President of the executive committee  
**OZAKI MIE**  
INTERVIEW

photo: 川岸 暁

## 魅力的な四国、美しい日本を 世界に伝えていきたい。

巻頭インタビュー — NPO四国夢中人代表 — 尾崎 美恵 —

フランス人に日本文化を教える。それが私のミッション。

尾崎さんは2001年に43歳で大学院に入学され、フランス語を学ばれたそうですね。当時は専業主婦だったそうですが、そのきっかけは何だったのでしょうか。

「嫁」であり「妻」であり「母」である自分は、これまででどれだけ自分らしさを発揮できたのだろう。「自分」とは何なのか、この世に生まれてきた証のようなものが欲しくて、大学院に行こうと決心したんです。

長男が通っていた幼稚園で親を対象にしたフランス語教室があり、そのときの勉強が楽しくて、「嫁・妻・母」を忘れられる気晴らしにもなりました。それで学ぶテーマには、フランス語を選んだんです。

でも、大学院で修士論文を書き終えれば、また専業主婦に戻るんだろうなと思っていました。

しかし、修士課程修了後すぐに講師になられたのですよね。  
 (尾崎) そうなんです、まったく予期せぬ展開からフランス語を教えるという機会をいただきました。非常勤講師の方がご病気で入院され、大学の方に「尾崎さん、ピンチヒッターで講師をお願いできませんか」といわれて「では」とお受けしたのですが、大変でしたね。  
 当初1年でもできれば十分と考え

ていまして、講師をする喜びにハマりまして、いろいろなチャレンジしましたね。ただフランス語の講師といても、普段フランス語を話す機会がないことは悩みました。教える際も日本語で日本の教科書を使うとなると、結局日本語だけの授業になってしまふ。だから、とにかく外国人を見つけたら話しかけるようにしていました。

今日のインタビューにはフランス人の「ギギさん※」も同席くださると伺っていたので「ラッキー！」という感じですよ(笑)。

「ギギ」こそ、お目にかかれてうれしいです。地方都市では、確かに外国人と話す機会は限られますよね。しかし、そのバイタリティは素晴らしいと思います。

(尾崎) 好きだからこそできた努力かもしれません。  
 我々が子どもの頃、ヨーロッパは憧れでしたが、それが最近、逆のパターンが存在することをフランスを訪れて知りました。

それはどういうことでしょうか。

(尾崎) フランス人が私たちの日本にリスベクトしてくれるようになったのです。憧れの国のフランスの方々が、我々の文化に興味を持っていてくれることは私にとっては何よりも驚きであり、幸せです。

それを知ってから私は「日本人にフランス語を教えるのではなくて、フランス人に日本文化を教えることが私のミッションなんだ」と考えるようになりました。



※写真左/ギギ ヨム・ジャマル(通称:ギギ)さん  
 フランス人の視点で日本の文化、食べ物、生活などの情報を色濃く紹介しているフランスのトップYouTuberの一人。本誌第75号の巻頭インタビューに、ご登場いただいています。

巻頭特集

INTERVIEW

NPO四国夢中人 代表

尾崎 美恵

Ozaki Mie

相手のことを考えて、  
心惹く情報の発信をしなければ、  
人はこちらを振り向いてくれません。

主婦として3人の子育てをおこな  
いながら、2008年には「四国夢  
中人」というNPOをほぼ1人で  
立ち上げ、その後は様々な活動  
を精力的にされていますよね。

〈尾崎〉最初は漠然と「フランス人  
と親しくなって、何か素敵なこと  
ができればいいな」という思いだ  
けでした。

そこでお金も経験も何もない私  
は、まず「四国のことを知ってもら  
うためにパリに行こう」と考えま  
した。それでいろいろ調べると、フ  
ランス人がサポートする  
「JAPANEXPO」というイ  
ベントが開催されていることを知  
り、行ってみたのです。  
するとショッキングな事実に向  
面しました。フランス人にとって

四国を知ってもらったため、私にできることがあるはずだ。

四国は、東京、大阪、北海道、九州と  
いう存在に比べると何も知られて  
いないエリアでした。外国人向け  
に発信されている日本観光のゴー  
ルデンルートからも外れていまし  
たし、情報発信ができていないと  
いう意味では、完全に「日本じゃな  
い存在」でした。四国は「行っても  
仕方がない場所」という扱いを受  
けていたのです。

しかし、行政などが、観光誘致や観  
光振興策を推進しているのではな  
いのですか。

〈尾崎〉世界遺産もないし、興味の  
対象ではなかったんです。当時は  
「四国で一週間も滞在するくらい  
なら、京都や大阪に行った方が良  
い」という感覚でした。

高松に「四国運営局」という機  
関があり、そこが「ツーリストや  
ジョブナリストを四国に全部タ  
ダで招聘します」といつても来な  
かったそうです。だから行政も企  
業も、四国観光誘致にとっても消極  
的でした。

「それなら、私に何かできること  
があるはずだ」と思い、とりあえず  
「JAPANEXPOに参加して  
みよう」と考えました。そして「日  
本が大好きなフランス人が集まる  
場所」「日本でありながら、日本と  
して知られていない四国」のこと  
を紹介しよう」と思い、2008  
年から2011年までの4年間、  
フランス最大の日本イベント  
JAPANEXPOに四国ブ  
ィスを出版しました。

JAPANEXPO、そしてギメ東洋美術館でのアピール。

〈ギギ〉私も2004年に普通のピ  
ジターとして参加しましたが、いろ  
いろ大変でした。

尾崎さんは自費に近い形で参加  
されたそうですが、出展ブースでは  
毎年のような企画内容をトライ  
されたのでしょうか。

〈尾崎〉四国が知られないのは、心を  
惹く情報が発信されていないから  
からです。ですから、フランスの方  
が興味を持っていただけることを  
考えて考えて考え抜きました。

それで四国全域をネットワー  
クする文化遺産「四国遍路八十八カ所  
の巡礼」や香川県のソウルフード  
「讃岐うどん」などをテーマに、様々  
なイベントを開催しました。

特に四国遍路については、毎年フ  
ランス人を招聘しています。日本人

でさえ八十八カ所を巡る方は少な  
いのですが、フランス人はとても楽  
しそうに徒歩で巡られています。

そんな巡礼経験者が、翌年の  
JAPANEXPOのブースにボ  
ランティアで参加してくださって、  
四国の魅力を語り、質問に答え  
たりして四国の魅力をどんどん発  
信してくれました。

意欲的な国際交流を推進してきた  
努力が実り、「フランス国立ギメ東  
洋美術館」で四国遍路についての講  
演をされたそうですね。

〈尾崎〉非常に権威のある美術館で  
すから、普通に「四国遍路の紹介を  
したいから講演をさせてください」と  
お願いしても、美術館の講演テー  
マに添ったものでなければ許可は

下りません。

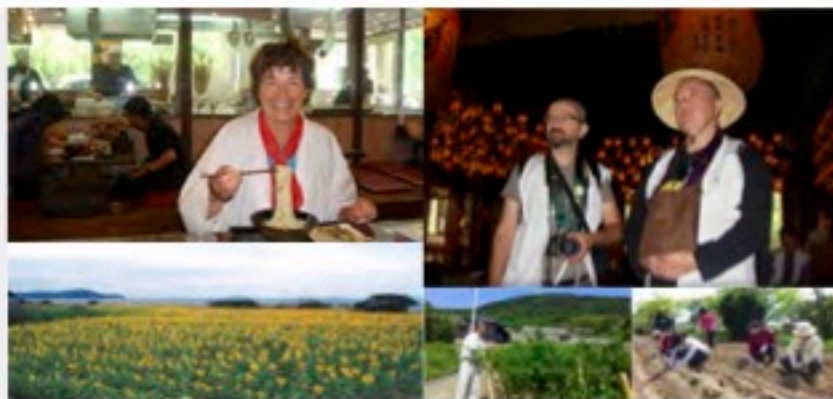
そこで情報収集して「東洋のお礼  
文化」についての講演をするという  
ニュースを掴んだので、四国お遍路  
の紹介もさせてほしいとアプロ  
ーチしました。それで講演の許可を  
いただけました。ただ説明について  
は、フランス人の方にお問い合わせ  
しました。

〈ギギ〉フランス人が説明するのは、  
フランス人の理解と共感が得られ  
やすいからですか。

〈尾崎〉そうですね、フランス人なら自  
分たちの好みがわかっていますか  
らね。日本人である私が日本文化を  
説明すると、詳しくなりすぎたりし  
て、理解してもらおうのがすごく難し  
くなると思います。

四国夢中人

HTTP://MUCHUJIN.JP



一途な思いが、EU大統領との面会を実現させた。

2012年以降、JAPAN EXPOへの出展をされなくなったのはなぜですか。また、どのような活動にシフトされたのですか。

〈尾崎〉簡単にいうと行政の支援がなくなったからです。それで、次の施策としてスポンサーを見つけて、協力してもらうことをおこないました。

そして企業や組織のご支援を得て2012年からは、フランス人を日本に招聘しました。ジャーナリストの「クロード・ルブランさん」やイラストレーター「フローラ・シャブエさん」、フォトグラファーの「ダヴィッド・ミシヨールさん」など、様々なジャンルの第一線で活躍されている方をお招きして、お遍路体験などを通じて四国の紹介していただいたんです。

彼らに来ていただくために彼らに喜んでもらえること、いちばんやりたいことを準備するなど、大変なこともありましたが、その甲斐あって皆さんとても素晴らしい表現で四国の魅力を掘り起こしてくださいました。

〈ギギ〉それはナイスアプローチだったと思います。2011年頃までは、フランス人にとって四国は興味の対象ではありませんでしたが、最近では知名度も高くなっています。四国遍路、香川のうどん、徳島の阿波踊りや鳴門、それから愛媛のしまなみ街道などに多くの人が行きたがるようになっていきました。フランス人は、自分たちのオーセンティックを見つけて楽しむ人が多いですからね。今後も人気は上昇すると思いますよ。

2014年には欧州連合(EU)のフアンロンバイ大統領(首脳会議の

常任議長との面会を果たされたそうですね。

〈尾崎〉きっかけは海外で活躍する欧州俳人4人を招いておこなった、2週間の四国俳句巡りでした。そして、その旅で感じたことを詠んでもらった350句を一冊の句集に仕上げたのです。

素晴らしいこの本を手にしたとき、俳句好きで知られるEUのフアンロンバイ大統領に差し上げたい」と思い、その旨を記したため手紙でEUに送ったところ、大統領秘書官からエメールアドレスが届きました。驚いたことに「ぜひ面会したい」とのメッセージが書かれていました。そんな経緯があつて、2014年の1月に面会することができました。

お目にかかるのが大統領はとても哲学的な方で、そこが日本の政治家との大きな違いだと感じました。哲学を持っていないと、様々な文化がひしめくヨーロッパを治めることはできないんじゃないかなとも思いましたね。

2013年に四国・松山にいらしたとき、俳句フアンの1人として松山をたいへん気に入った」というお話を伺いました。一般人である私に30分もの時間を割いていただけたことにいまも感謝しています。

〈ギギ〉なぜ俳句で四国を紹介しようと思ったのですか。

〈尾崎〉日本を紹介するためにとても良い手法だと思ったからです。普通であれば経済効果を上げるために「有名観光地を紹介」するところですが、私はそこに興味がないんです。ただただ「四国の魅力、日本の魅力」を伝えたい、その一心で活動をしていますから。

国際交流には、お互いが尊敬しあえる関係が大切。

尾崎さんも、ギギさんも日本の魅力発信のためにエネルギーが注ぎ込まれているように思いますが、それぞれに考える日本や四国の魅力をお聞かせください。

〈尾崎〉フランスの方は「誰も知らないような場所に関心を持ち、行ききたがる」。だから、海外の方にまだまだ知られていない四国は、逆にチャンスではないでしょうか。京都や北海道にはみんな行っているから、四国なら例えば「徳島県の祖谷溪谷」など、コアな場所に関心の対象が向くはずですよ。今まさに「四国の時代が来た」という思いです。

〈ギギ〉去年の夏に香川と愛媛を旅したときのビデオを動画サイトにアップしたのですが、そのときにつけたタイトルが「もうひとつの違う日本」でした。食もあつて、巡礼もあつて、美しい景色があつて、文化があつて、私自身「違う日本」を感じたからです。

四国にもそういう魅力がたくさんあると思います。フランス人にはぜひ四国すべての県を堪能してほしいです。

〈尾崎〉文化交流というのは、基本的にリスベクトルしあえる関係だとうまくいく。そういうベースがあると、どんな広がりが出ていきますが、ビジネス色が前に出ると広がりにくいですね。

旅行会社や行政のアプローチも悪くはないのですが、例えば成功事例である「JAPAN EXPO」に乗っかって「おいしいところをいただこう」的な手法では、本当の文化交流には発展しにくいと思います。お互いが尊敬し合える企画を進めて、一度きりで終わらない関係性を深めていくことが重要ではないでしょうか。

尊敬し合う関係が大切。なるほど国際交流も人づきあいと同じなので、最後に今後のご予定をお聞かせください。

〈尾崎〉とおきの予定がありません。香川県に豊島という人口20人、平均年齢が80歳の島があるので、そこに養護学校から寄贈された花を京都大学の学生と一緒に植えるという企画をゴールデンウィークにスタートします。

我々も参加して「島全体をお花畑にしてみよう」という楽しいプランなんです。ギギさんもご都合がよろしければ、ぜひいらしてください。

〈ギギ〉それはとても楽しそう。ぜひ伺いたいです。

〈尾崎〉島の皆さんは自給自足で生活していて、お店もレストランもありません。島で経済活動をしているのは自販機1個だけで、あとは何もないんです。島にお金を持ってきて、ジュースを飲む以外は使えない。そんな場所ですが、きっと魅力的な四国、美しい日本を肌で感じることもできると思います。だから、外国の方にもぜひ参加していただければうれしいです。

夢と笑顔が島からあふれて、とても素晴らしい交流が生まれそうです。ね。本日はお忙しい中、貴重なお話の数々を本当にありがとうございました。日本とフランス、そして世界との架け橋になるご活躍をこれからも期待しております。



(おざき みえ)

- 1954年 愛媛県生まれ
- 1997年 岡山大学仏文研究科修士課程(専攻主修44歳)
- 2001年 岡山大学仏文研究科修士課程修了/仏語講師スタート
- 2002年 文科省-仏政府による仏語教員夏季研修(ツールン市)
- 2003年 カナダ-ケベック州政府による仏語教員夏季研修(モントリオール市)
- 「中等教育における仏語の展望」京都大学 学会発表
- 2006年 香川大学教出附属中学2004年-2010年フランス語講座担当
- 2007年 文科省-仏政府仏語教員夏季研修(ピッシー市)「四国夢中人」結成
- 2008年 パリ-ジャパンエキスポ-毎年出演 ~ 2011年
- 2009年 うどん講習会(日仏文化センター)
- 2010年 日本参加 (クレムロフェラン)
- 2011年 遍路講演(フランス国立ギメ東洋美術館)
- 2012年 日本の庭・春祭り出演(パリ市主催)、大衆演劇公演(パリ国際大学都市)
- 2014年 欧州理事会議議長 フアンロンバイ氏面会(ベルギー-ブリュッセル 欧州連合本部)
- 2015年 遍路講演とうどん講習会(パリ/日本文化会館)
- 2016年 「四国への思い」ブリュッセル2016、(パリ/日本文化会館・在ベルギー日本大使館)

